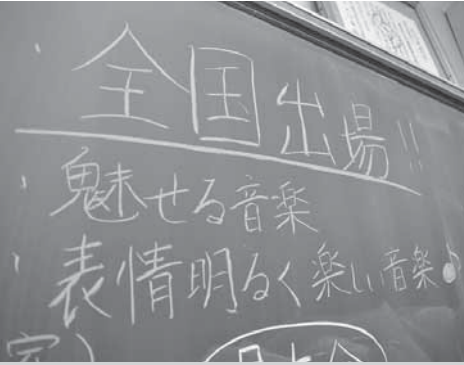


秋の栄冠



久慈高校 マンドリン部の歩み

■昭和37年、同好会結成。昭和38年に部に昇格。昭和48年には部員70人を数えた。昭和57年の県高校総合文化祭第1回器楽演奏発表会では金賞獲得。その後も同部の演奏は全国・県演奏会などで高い評価を受け続けている。



練習室の黒板に書かれた3つの目標

朝昼も費やし練習
10月29日、盛岡市で開かれた県高校総合文化祭・器楽コンクールで、久慈高校マンドリン部が最優秀賞を獲得。重圧をはねのけて、三連覇を成し遂げました。
同部の部員は2年生7人、

久慈高校マンドリン部 県高校総合文化祭・器楽コンクール

三連覇に 歓喜の涙

迎えたコンクール当日。前回、前々回と最優秀賞を獲得した久慈高の演奏は最後。重圧で緊張がピークに達する中、15人の部員は、審査員、観客、他校生徒、すべての視線が注がれるステージに立ちました。壁にぶつかりながら、何度も練習してきた2曲。15人は無我夢中で弦を弾き、息の合った音色を響かせました。
そして審査発表。期待と不安を抱え、折る部員の耳に「最優秀賞、久慈高校マンドリン

息合った音色響く

1年生8人の15人。3年生引退後の目標は、全員で話し合っただけでした。決めた「全国出場」「魅せる音楽」「表情明るく楽しい音楽」の3つの目標には、聴いている人にも音楽と一緒に楽しんでほしいという思いを込めました。
コンクールで演奏する曲を選んだのも部員。荘厳な雰囲気を感じさせる「ORIENTAL WIND」と、テンポが速く迫力ある「星空のコンチェルト」の2曲に決め、放課後だけでなく、朝や昼の時間も練習に費やしてきました。

部」の声飛び込んできました。その瞬間、目には歓喜の涙。声を上げて抱き合い、全員で喜びを爆発させました。
ソロを担当した下館沙由利さん（2年）は「最高にうれしい。どんな演奏をしたか覚えていないほど緊張しました。このメンバーで演奏できて良かったです」と笑顔。顧問の吉田大樹先生は「演奏曲は、今までで最も難しい部員の曲。まだ課題はありますが、想像以上の仕上がりました」と生徒の努力をたたえました。
三連覇となる最優秀賞の栄冠をつかんだ久慈高マンドリン部。来年夏には、福島県で開かれる全国高校総合文化祭に県代表として出場します。

11月21日、地区高校総合文化祭でも見事な演奏を披露



「全国で良い演奏を」
来年は多くの新入部員を。音の迫力と緊張に負けない気持ちを身につけ、全国大会では今年よりも良い演奏がしたいです！
部長 **権谷ふみ** さん（2年）

Interview 来年への抱負

「楽しい演奏目指す」
部員の仲の良さが長所。この雰囲気そのまま本番に出し、もっと観客の皆さんに楽しんでもらえる演奏を目指します！
下館 **慶子** さん（2年）

「機会増やし経験を」
生徒には自分自身の課題と向き合った練習でレベルアップを期待。良い演奏には経験が大切。演奏機会も増やしたいです。
顧問 **吉田大樹** 先生



県高校総合文化祭・器楽コンクールで3連覇を果たした久慈高マンドリン部

多くの選手が全国大会出場を果たした夏。先輩から伝統を受け継ぎ、中学・高校の新メンバーは、新人大会など秋の県大会に挑みました。夏に続いて大活躍した本市選手。本号では秋の県大会、全国大会で栄冠をつかんだ選手たちを紹介します。（13頁まで）